

「土木鋼構造用塗膜剥離剤技術」技術比較表の追加公表について

- この技術比較表は、「公共工事等における新技術活用スキーム」テーマ設定型（技術公募）を活用し、平成29年度に公募を実施し、平成31年3月に公表した「土木鋼構造用塗膜剥離剤技術」技術比較表（10技術）について、令和5年度において追加公募を行ったものである。
 応募があった7技術のうち、選定結果取り消し申請のあった4技術を除いた3技術の現場実証結果を追加している。
- 2枚の技術比較表で構成されており、1枚目が令和5年度追加公募を行った3技術の現場実証結果を記載した技術比較表、2枚目が平成29年度当初公募により公開された10技術の技術比較表となっている。
- 試験継続中の評価項目もあるため、「暫定版」としている。
- 技術比較表に記載している概算標準施工費は、開発者からの見積であり剥離後の処分費及び運搬費は含んでいない。剥離剤の塗布回数は処分費に影響するため、選定にあたっては留意すること。
- 過去に、土木鋼構造用塗膜剥離剤による塗膜除去作業中に火災が発生し、重大な事故につながった事例がある。これを踏まえ、土木鋼構造用塗膜剥離剤を用いて塗膜の剥離作業を行う際には、火災安全性の確保に十分留意すること。
- 促進暴露耐久性試験（D-1）は、早期に耐久性を確認するため人工的な過酷環境で実施した暫定評価であり、この試験で要求水準をクリアした技術は「○」としている。要求水準をクリアしなかった場合、当該試験方法では塗替え塗膜の耐久性・防食性について暫定的な評価ができないため、屋外暴露耐久性試験（D-2）の結果に基づいて評価を行うことになる。
- 技術比較表にて設定されている性能評価項目、性能評価指標、要求水準、およびその現場実証結果については、各技術比較表掲載技術を公募した当時の情報に基づくものである。掲載技術の活用検討の際は、閲覧者にて当該技術の性能を開発者へ確認すること。

○土木鋼構造用塗膜剥離剤技術とは

鋼道路橋の塗替え塗装工事等において、溶解・膨潤・軟化等の化学的作用により、粉じんや騒音を発生させずに、既存の塗膜を除去する技術です。



剥離剤塗布状況



剥離剤塗布後

◆技術比較表へ追加掲載する3技術（技術比較表掲載順）

	応募者	応募技術名	NETIS番号	技術概要
1	HIMPLAN(株)	中性型水系剥離剤ECO「STRIPPER」	CB-210014-A	中性型水系ECOタイプの剥離剤で150mg/Lの濃度でも生態影響が極めて少なく安全配慮された工法であり、ゲリラ豪雨等の想定外の事態で、まんがいち雨水と共に剥離剤成分が流出した際に環境面に対して安全性の数値を示す事ができる。本技術の活用により鋼構造物及びコンクリート構造物の旧塗膜を湿潤化させ効率よく安全に塗膜除去ができるため経済性が向上する。
2	エスケー化研(株)	ハクリタイトエコST	KK-200021-A	鋼構造物の塗膜除去工法において、水系剥離剤により旧塗膜を浸透・膨潤・軟化させ、容易に除去できる塗膜除去技術であり、従来は高級アルコール系剥離剤であった。本技術の活用により、経済性、安全性、品質、施工性の向上と、環境への影響抑制が期待できる。
3	(株)ソーラー	パントレ工法（パントレW）	KK-160028-VE	生分解性を有する剥離剤を用いて鋼構造物の旧塗膜を湿潤(湿式)除去する技術であり、従来はプラスト工法で対応していた。本技術の活用により経済性の向上、工程の短縮と、環境への影響抑制が期待できる。